

寝屋川市 自然を学ぶ会 会報

No.101

2025.6.20

発行 寝屋川市自然を学ぶ会

会長 山田 晃

事務局 寝屋川市高宮1丁目7-9

千田 正喜 宅

TEL 090-4036-0719



シナサワグルミを観る！ 第1回定例自然観察会 淀川太閤・出口地区 2025.5.5

冒険の日々

工藤直子

(水のむこうに なにがみえるかな)
と 池でさかながはねた
(地面のなかはどうなってるのかな)
と 草がねっこをのぼした
(はじめてであうのは だれかしら)
と雨つぶが雲からとびだした

そして
地球がぐるりと
でんぐりがえしをした
(あした なにがおこるかな)
とね

工藤直子詩集「うたにあわせて あいうえお」岩崎書店 刊

目次

- (2) 行事報告 1 総会・記念講演
- (3) 行事報告 2 定例自然観察会 私市植物園
みんなの掲示板 奈良スズラン・橿原市昆虫館
- (4) 行事報告 3 定例自然観察会 東部丘陵・淀川出口地域
- (5) みんなでつくる自然資料室だより
・子ども自然シリーズ講座 ①ズーム万華鏡 ②ペン立て
・大人自然シリーズ講座 ①木工作(七福神) ②川と暮らし
・スギ研修会 大阪市立自然史博物館・長居植物園
- (6) 私の散歩道 「小さな花も美しい!!」
野外活動センターとの協働活動 行事への協力 「森の探検」

- 参加・協力活動 田んぼの楽校
- (7) 参加・協力活動 池の里クラブ祭、たんぼぼ保育所
淀川まるごと体験会、市環境フェア
- (8) 自然はすばらしい シダ植物シリーズ「ゼンマイ」
- (9) 自然界のふしぎ 海の火山 1
- (10) 私の自然観察 身近な昆虫 49 「ナガサキアゲハ」
- (11) 本の紹介 「僕には鳥の言葉がわかる」・新会員紹介
- (12) 行事予定 子ども自然シリーズ 講座④⑥
定例自然観察会 ③水生生物 ④樹木・キノコ
みんなの掲示板 ③伊吹山 山室湿原

＜2025 年度総会から＞ 寝屋川市立市民会館 4 月 29 日(火・祝) 参加者 41 名

今年度も「自然はおもしろい」を広げましょう!!

山 田 晃

4 月 29 日第 26 回総会と講演会を今年度も寝屋川市立市民会館で開催し、昨年度の活動報告、会計報告の後、今年度の活動計画などを決定していただきました。

昨年度の活動について会員の皆様のご協力のお陰で、定例観察会を中心に計画通り実施することができました。その中から次の 3 点の活動について報告します。

・会報 100 号(全頁カラー版)の発行について

本会発足から年 4 回発行を続けて 25 年 100 号を発行することができました。行事の予定、活動の報告だけでなく、シリーズ記事の継続、会員の皆さんの「私の散歩道」など、活動を進める軸として、会報作りにご協力くださったことに感謝します。この会報 100 号は多くの市民や団体の方々にも配布させていただきました。

・幅広い交流の場としての展示会について

昨年度も寝屋川市アルカスホール・ギャラリーで展示会を 2 月 19 日から 25 日まで例年通り開催できました。本会会員の活動の交流だけでなく、関係機関や団体の活動展示もあって、幅広く交流を進める場となりました。

・広がった参加・協力活動について

環境フェア、フェットエスポアール、自然史フェスティバル、いちよう祭等の行事に参加し、小学校への出前授業や地域の自然体験活動、手作り活動にも協力してまいりました。

今年度も「自然はおもしろい」を広げましょう!!



総会のようす

＜2025 年度 記念講演＞

生物多様性について ～身近な自然から学ぶ生物多様性～

講師 丸山 勇気さん(生物多様性センター)



講演中の丸山さん

講演会では、寝屋川市木屋元町にある「生物多様性センター」の丸山勇気さんに、自然観察をする上で大切な「生物多様性について」聞かせていただきました。

生物多様性って何?から始まって、環境によって成立する生態系の多様性、たくさんの種が存在していることの多様性、そして同じ種でも個性の違いで分けられる遺伝子の多様性などがあること、そしてその多様性に 4 つの危機が迫っていることも聞きました。開発などによる危機、里地里山などの放置による危機、外来生物の持ち込みによる危機、そして地球環境の変化による危機など生物多様性をめぐる動きについて、身

近な自然から学ぶことを学ばせていただきました。

本会のこれからの活動でも、東部丘陵に残された里山の野草、淀川のワンドでの外来生物、田んぼのいきもの、公園の樹木など身近な自然観察から生物多様性について学び、観察会をより豊かなものにしたいと思います。

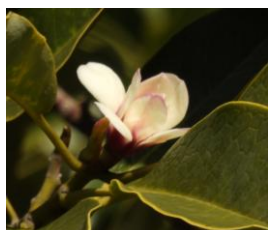
第6回自然観察会 私市植物園 3月20日(木・祝)

参加者 47名

～樹木にも、野草にも可憐な花が咲いていました～

田中 英明

朝から快晴で、零度近くまで冷え込みましたが、日中は10℃



オガタマノキ

前後と絶好の観察日和となり、本多政雄さんの案内で観察会がありました。47名の方が参加されました。

初めに向かったオガタマノキは、大きな木に小さな花が可憐でした。シキミ、モクレイシ、バクチノキなどを見ながら、研究棟の横の道を抜けると、カワズザクラ、オオカンザクラ、ウメ、スモモ、キンキマメザクラなどが咲いていました。シダレザクラは、昨年に続き今年も蕾でした。



観察のようす



ミスミソウ

山野草エリアでは、春の妖精カタクリやキクザキイチゲ、ミスミソウ、セントウソウ、トキワイカリソウ、ムサシアブミ、キクバオウレンなどが歓迎してくれました。その他、ヒサカキ（雄花、雌花）、ウグイスカグラ、ハシバミ、ツノハシバミ、アブラチャン、モトマチハナワラビ（希少種とのことです）などが見られました。

山野草エリアでは、春の妖精カタクリやキクザキイチゲ、ミスミソウ、セントウソウ、トキワイカリソウ、ムサシアブミ、キクバオウレンなどが歓迎してくれました。その他、ヒサカキ（雄花、雌花）、ウグイスカグラ、ハシバミ、ツノハシバミ、アブラチャン、モトマチハナワラビ（希少種とのことです）などが見られました。

観察後にユリノキ広場で、本多さんから私市植物園とメタセコイアのかかりについての話を聞いた後、ティータイムでおもてなしを頂き、楽しい時を過ごさせていただきました。

第1回みんなの掲示板 スズラン・樫原市昆虫館 5月27日(火)

参加者 22名

～童心に戻る～

中村 清秀

空はどんよりと曇り、肌寒く、午後から雨模様とのこと。参加者は22名。

最初に訪れたのは、向刈のスズラン群落地。田植えを終えたばかりの段々畑は日本の原風景を思わせる。森に入ると涼しいというより、寒い位。森を抜けた北斜面にスズランの葉が一面。肝心の花は大きな葉の下にひっそりと隠れるように小さな白い花を咲かせていた。可憐・純粋という言葉がピッタリ。見た目に反して、毒をもっていることは意外と知られていない。遊歩道にはフタリシズカ、ギンリョウソウ、マムシグサ等も観られた。



スズラン



観察のようす

『かざろひの丘万葉公園』で昼食後、樫原市昆虫館へ。「見て、聞いて、触って、感じる昆虫館」と言うだけあって、中々展示スタイルが工夫されている。ヘラクレスオオカブトとカブトムシの戦いに見とれ、スズムシやマツムシ等の鳴き声を聞こうと何度もボタンを押した。オオゴマダラやシロオビアゲハ等500個体のチョウが乱舞する放蝶温室では、皆さんが笑顔でチョウを追う姿は童心に戻ったようでとてもほほえましかった。オオゴマダラの黄金色のサナギにはビックリした。



放蝶温室でのようす



オオゴマダラ

晴れ男、晴れ女のお蔭で雨に見舞われることも無く、この日の誕生花の花言葉、集う喜び・楽しむ心・謙虚に加え、童心に戻った観察会でした。

第1回自然観察会 東部丘陵 4月22日(火) 参加者25名

～みごとにレンゲ畑が！～

天気も良く、歩くと心地よい汗がでるくらいの気候でした。

田中英明さんの案内で、寝屋川公園駅から出発し、ヒメオドリコソウ、キランソウ、オオジシバリなどを観察しながら、古野池へ。ここでは、ハルジオン、クサイチゴ、ヘビイチゴ、カキドオシ、アケビ、カエデの花などお馴染みの春の野草などを観ることが出来ました。



ゴヨウアケビ

打上神社で休憩、ここでは、木村さんより寝屋川では数少ない極相林の

話、西村さんより火成岩の露頭の話を行いました。

東部丘陵に入るとコメツブツメグサ、スイバ、ミゾイチゴ、オキジムシロ、ミミナグサなどが見られ、期待していたキツネアザミやギンラン、タツナミソウは観られませんでした。山を抜けると満開のヤマフジが。春の風景を楽しみながら丘陵地を下っていくと、最後に見事なレンゲ畑が迎えてくれ、レンゲ畑の中で昼食をいただきました。春を楽しんだ観察会でした。



レンゲ畑の中で

第2回自然観察会 淀川出口地域の野草 5月5日(月・祝) 参加者32名(内子ども2名)

～約50種の植物を記録しました～

本多 政雄

春の淀川自然観察会を5月5日に太間～出口野草地域間で行いました。当日は好天気で32名(内子ども2名)の参加者がありました。

この地域は2019年5月6日(振替休日)に調査してから6年経過しています。2020年の枚方地域観察会が新型コロナウイルス感染症のまんえんで中止になり、次の年もウイルス感染症が治まらないので淀川の自然観察会はできませんでした。植物の生育環境と植物の種類にかなり変化があると予想して観察を始めました。枚方市の出口地域で堤防と野草地域で工事が行われていました。今回の観察会でオドリコソウが見つかりました。オドリコソウは八幡背割堤地域の背割堤防北側西部で群生が見られます。6年前に見られて今回見られなかった植物にナルトサワギク、マツバウンラン、ハルガヤがありました。今後堤防や河川敷の工事が終わった場所に、ど



オドリコソウ



イヌコモチナadeshiko



シロバナマンテマ



参考 マンテマ

のような植物が生えてくるのか興味をそそられます。今回の観察会でこの地域で約50種の植物を記録しました。その中で興味深かった3種の花を記載します。シロバナマンテマの花は白～薄い紅色まであり、紅色の花は別種のマンテマのように見えますがシロバナマンテマです。淀川ではまだ見たことがありませんが、参考までに牧野の拙宅近くで撮ったマンテマの花を紹介します。

みんなでつくる自然資料室だよ

□子ども自然シリーズ講座

①ズーム万華鏡 4月26日(土)

子ども22名(他23名)

ペットボトルの底に反射する銀紙を巻いて、包んだ紙を上下することで模様の変化を楽しめます。反射する銀紙をしわにならないように慎重に貼っていきます。包む紙に自由に模様を描いて、出来上がりです。

「最初はぐちゃぐちゃやったけど、きれいにできて良かった」「きれいに作れて楽しかった」



きれい！

②ペン立て 5月17日(土)

子ども12名(他19名)

長さの違う紙の筒を組み合わせ、色紙やシールで飾り、ペン立てを作りました。のこぎりで切った台に、長さの違う紙の筒を選び、台や筒に色紙を張り付け組み合わせます。次に、飾った筒をボンドで土台に張り付けて、シールで飾って出来上がり。個性豊かなペン立てが出来上がり満足気でした。「色紙を張るのが難しかったけど楽しかった」



完成

□大人自然シリーズ講座

①木工(七福神) 4月18日(金) 参加者34名

七福神が乗る船を組み立てていきます。七福神は杉本さんが木に描かれたものを使用。中井さんの説明を聞いて、のこぎりで切ったり紙やすりで整えたり。最後は、木工ボンドで貼りあわせていきます。杉本さんの七福神の話を聞いた後、作った船に七福神を飾って仕上げました。皆さん、すごく満足されていました。



これで良し！

②川と暮らし 5月30日(金)

参加者23名

ねやがわ自然塾の一講座を、今年度は1回きりのイベントとしました。市内を流れる3つの川(淀川、寝屋川、古川)の話を千田さんが、いろいろな角度から話されました。受講されていた上田さんから「子どもたちを水辺で遊ばす体験の大切さ」など、市の今の取り組み等の話がありました。



受講の様子

□スタッフ研修会

大阪市立自然史博物館・長居植物園

6月6日(金) 参加者16名

晴天に恵まれ、午前には植物園を散策し、花ショウブ・アジサイ・ダリア・バラなど色とりどりの花に出会いました。午後は博物館で「自然のしくみ・自然の歴史・人と自然の関わり」についての展示物を見て回りました。歩き疲れ、しゃべり疲れ、でも楽しい1日でした。



この植物は？

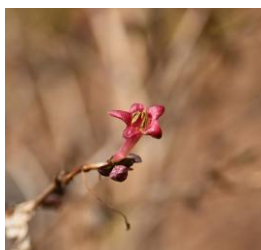
私の散歩道 「小さな花も美しい!!」

奥田 義也(中学生)

今まで、友達と一緒に新幹線など鉄道に興味があって、ドクターイエローなど鉄道の写真を撮っていましたが、今回私市植物園の観察会に参加して、草花などの花を撮りました。

木の枝の先に咲く小さいウグイスカグラはピントを合わせるのがむづかしかったです。カタクリなどは姿勢を低くして撮りました。草花の小さな花も美しいと思いました。

これからも近くの木や草花にも目を向けて、花の写真も撮ろうと思っています。



ウグイスカグラ



カタクリ



カタクリ



キクザキイチゲ

野外活動センターとの協働活動

□森のたんけん（野外活動センター行事への協力）

めぐみ幼稚園 5月28日(木)

園児 23名

協力者 4名

最初、森には何がいるかな?の問いかけに元気な声で、「キツネ」・・・など答えていました。「この森には恐竜がいるよ!」ということで、アラカシの葉っぱでステゴザウルス作り。できると大喜びで見せてくれました。次に蛍広場でオオバコの葉のスジ出しを



幼虫が丸まっている!

教えてもらい、葉っぱのすじに驚きも。その後、倒れた木の上を越したりしながら森の広場へ。高本さんが虫の幼虫を両手の中で振って手をあけると丸くなっているのにまた驚き。帰ってくるとタヌキが迎えてくれ、「本物?」とか言いながら触っていました。「いろんな虫やキノコが楽しかった」「虫をいっぱいつかまえてよかった」などの感想があり楽しかった森の探検でした。



ステゴザウルスできた!

参加・協力活動

□田んぼの楽校

4月28日(月)

協力者 13名 地元 7人 市 1人

高宮のレンゲ畑で、今年も東小学校の2年生(98名)の自然観察会がありました。「高宮地区の農地の今後を考える会」と本会が協力して行われました。

あいさつの後、米作りの話、田んぼの野草や鳥の話、レンゲソウとミツバチの関係の話を聞いた後、クラスごとに田んぼに入りました。9種類の野草を見つけるビンゴに挑戦し、花を見つけたり花の説明を聞いたりしました。

休憩の後、ビニール袋を持って再び田んぼへ。レンゲの花束やシロツメグサの花輪を作ったり、草笛に挑戦したり、カエルをつかまえたりして、思いっきり自然を楽しんでいました。「花束、お母さんにあげるねん」など家族へのおみやげも考えている優しい子どもたちでした。



カエルがいた!

□池の里クラブまつり 4月19日(土)

参加者200名 協力者6名

池の里市民交流センターでの池の里クラブ祭に、どんぐり工作とぶんぶんごまで参加しました。スポーツ体験・池里マルシェ・模擬店などがあり多くの方が来られ賑わっていました。

どんぐり工作では、話をしながら親子で楽しんでいる子や黙々と作る子など、楽しい作品が出来ました。ぶんぶんごまは回った時の色を考えて色鉛筆で色塗りをしました。出来上がって回すのが難しく何回も挑戦し、うまく回るようになり「回った!」と。



どんぐり工作

大喜びする姿も。

□淀川まるごと体験会(春)

4月27日(日)

参加者66名 協力者5名

～さわやかな木陰で工作を

楽しみました!～

今年は、夏の暑さを避け春にも実施されました。本会は、淀川河川公園点野草地区の西端のセンダンの木の木陰にテーブルを設置し、どんぐりペンダント作りとぶんぶんごま作りコーナーを設けました。体験会に参加の家族が、楽しめました。中には姫路から参加の家族もおられました。 うまく回るかな!



□たんぽぽ保育所 5月22日(木)

協力者3名

爽やかな初夏の陽気のもと、「くさむらようちえん」と題した自然観察会をたんぽぽ保育所で開催しました。保育所の年長さん24名が参加し、草むらに潜むバッタやキリギリスなどの幼虫たちを観察しました。

子どもたちは園庭の花壇や畑を巡って、草の間を覗き込み、バッタの幼虫がピョンと跳ねたり、キリギリスの幼虫が草の間から顔を覗かせるたびに、「いたいた!」「見つけた!」とあちこちで歓声があがりました。

また、室内に戻ってから「昆虫クイズ」や「セミ不思議クイズ」で幼虫たちがどのように成長していくのかを学び、自然の不思議さに興味津々な様子でした。自然の虫たちの動きに触れ、子どもたちの目は終始輝いていました。

最後には「また虫さんに会いたい!」という声がたくさん聞かれ、自然とふれあう素晴らしい経験となりました。



□市環境フェア 6月8日(日)

参加者200名 協力者16名

第7回寝屋川市環境フェアが中央小学校で開催されました。曇ったり晴れたり、雨がぱらついたり天候でしたが、今年度は多くの参加者を集めての開催でした。本会からは、例年通り、パネル展示と手作りコーナー(ぶんぶんごま、どんぐりペンダント、どんぐり工作)で参加しました。どのプログラムでも親子参加で、楽しく工夫をしている様子うかがえました。

(会場全体の参加者2200名)



どんぐり工作

自然はすばらしい シダ植物シリーズ9

ゼンマイ 紫萁 薇 ゼンマイ科

天野 史郎

ゼンマイは人里から山地の林内まで、いろいろな環境で普通に見られます。クルクル巻いた若芽は食べられるシダとして古くから知られており、江戸時代の本草書にも記されています。さらに時代をさかのぼれば、史記列伝には山にこもった伯夷と叔斉が薇（ゼンマイ）を食べたと書かれています。中国の薇はゼンマイとされてきましたが、野エンドウが正しく「紫萁」が本当のゼンマイです。大和本草には紫萁にゼンマイとふりがなをつけています。

若葉の綿毛は織物として古くから利用され、伝統織物のぜんまい織として現在でも伝承されています。ぜんまい織は木綿と混紡で織られ、防水防虫効果や保温性にも優れているそうです。

倭訓栞（わくんのしおり）によればゼンマイは錢舞の意味で、若芽が錢の形をして回転しているように見えるからとあります。また牧野図鑑にはゼンマイを錢巻とし、若芽を錢にたとえたものであろうとしています。ねじまき時計のゼンマイ（発条）は植物のゼンマイの形状から名づけられたもので、植物のゼンマイが本家本元です。

ゼンマイは夏緑性で根茎は短く這い、大きな株になります。春初めに、極小のブドウの房を巻いたような姿の胞子葉が栄養葉より先にでてきます。胞子葉は胞子を飛ばしてしまうと役目を終え、初夏には枯れてしまいます。遅れてでてきた栄養葉は2回羽状複葉の葉を展開し、大きいものでは1mを超えます。本来、胞子葉と栄養葉が異なる2形性をしめしますが、栄養葉の先に胞子葉をつけるものがあり、これをハゼンマイとよびます。シダ植物ではときどき栄養葉の一部が胞子葉に変化することがあり、ハゼンマイもそうした生態型のひとつでしょう。胞子葉が不意に刈られたりしても栄養葉が胞子葉に変化することがあります。したたかに生きるシダの姿です。



緑色の栄養葉をつきぬけ茶色の胞子葉が直立



春初めにでてきた胞子葉

自然界のふしぎ

自然界の不思議やその仕組みに迫るために前回の「アンモナイトのふしぎ1～4」に続いて、今年度は「海の火山1～4」をお届けしています。

海の火山 1

西村 寿雄

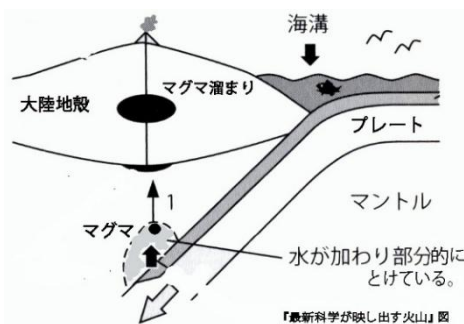
火山の話題は2022年度でも取り上げました。今回また取り上げたのは海底で起きる火山の話題がしばしば耳にするようになったからです。

日本列島にはたくさんの火山が並んでいます。火山フロントなどと呼ばれていることはご存知かと思います(下図)。陸上の火山の多くは太平洋プレートなどが影響していることが知られています。

プレートが沈み込む時に海水も一緒に入り込みます。その水が一部マントルの温度を下げるのです。するとマントルの一部が溶け出し結晶分化(マントルがとけて新たな岩石を作る)を起こします。そこでいろんな石のマグマが生まれ、一部は上昇して陸上の火山が生まれています。陸上火山の多くは花崗岩質(流紋岩質)、安山岩質のマグマです。一部は地下深くで固結して花崗岩を生んだりします。噴火の形は、陸上火山の多くは花崗岩質・安山岩質マグマなので爆発的噴火をします。富士山は玄武岩質マグマなのでハワイのように流れ出るでしょう。

陸上では図のように火山フロントがありますが、海底の火山も多くは火山フロント上に出来ているのでしょうか。上の図を見る限り海底にも火山フロントが延びているようですが・・・伊豆半島沖では伊豆大島や三宅島の島を造りました。1983年に三宅島で噴火がありましたが噴火した翌年、私も三宅島に行ってみました。たくさんの溶岩がとろとろと流れ出ていて付近の森林は焼き尽くされていました。一面枯れ木の山です。また、阿古小学校も流れ出た溶岩で埋め尽くされていました。

次回からは近年の海底火山の実情をお話ししましょう。



阿古小学校

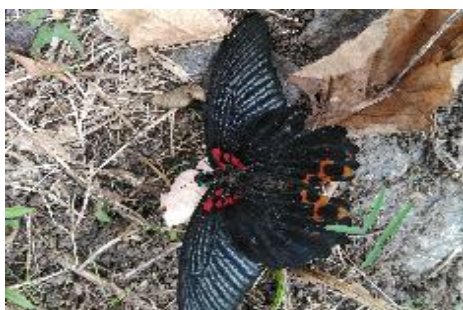
私の自然観察

身近な昆虫 49

ナガサキアゲハ

高本 憲二

ナガサキアゲハ (学名: *Papilio memnon*) は、尾状突起を持たない大型のアゲハチョウの一種です。オスは黒一色、メスは翅の基部が赤色で白斑紋があります。翅の黒と赤のコントラストが鮮やかで、特にメスは変異が多く、地域ごとに異なる模様をしています。



ナガサキアゲハは九州を中心に、本州南部から沖縄にかけて広く分布していましたが、食草であるミカン類の栽培の広がりや温暖化に伴い現在では関東まで生息域を広げています。都市部の公園や庭先でも見かけることができます。翅を広げると約 12 cm にもなる大きさで、力強く優雅な飛翔が特徴です。

幼虫は特にミカン科の植物、特にカラタチやユズ、ナツミカンの葉を食べて成長します。幼虫期は鳥のフンに似た擬態をすることで天敵から身を守り、成長するにつれて鮮やかな緑色へと変化します。成虫になると花の蜜を吸い、特にハイビスカスやクサギなどの花を好みます。



ナガサキアゲハは朝晩の涼しい時間帯に活発に活動します。花壇や果樹園、公園などで観察でき、翅を広げて休んでいる姿や蜜を吸う様子は絶好の観察対象です。

ナガサキアゲハの生息環境を守るためには、ミカン科の植物を植えることや、殺虫剤の使用を控えることが重要です。自然との調和を大切にしながら、美しい蝶の生態を観察する喜びを広げていきましょう。

昨年、自然体験学習室の花壇にボタンクサギを植えました。花が咲く頃には大きな黒いナガサキアゲハが見られるかもしれませんね。

図書紹介

～こんな本が出たよ～

『僕には鳥の言葉がわかる』

鈴木俊貴著 小学館

著者はもう 20 年も前から鳥のさえずりを「鳥のことば」として解明してきた動物行動学者。論文はかなり以前に出されていますが、今回、一般に親しみやすい本として出版されました。鳥の「ことば」研究の過程がドキュメンタリー風にわかりやすく書かれています。

本の最初は、著者の子どもの頃の野鳥観察について。子どもの頃は野鳥は遠い存在だったようです。その著者は高校生になって双眼鏡を買ってからバードウォッチングにはまりました。著者は、たくさんの鳥たちの声を聴くうち「どうも何か意思をつたえてるのでは」と感じ始めました。特にシジュウカラの鳴き声にはバリエーションの多いことに気が付いて大学4年の卒業研究として軽井沢で多くの鳥の声を聴き分けました。餌場で「ヂヂヂヂ」と聞こえる鳴き声に、これはどうやら「集まれと言っている」よう

だと気がつきました。さらに細かく鳥たちの声を集めるために軽井沢の森に 40 個もの巣箱をかけます。シジュウカラはヒナに向かってカラスを警戒する時の鳴き声はどうやら「ツピーツピー」。これは「警戒しろ!」と言っているみたいと気がつきました。その後巣箱も卵やヒナを捕食者に荒らされないように巣箱を作り変え、再び木にぶら下げます。やがて、アオダイショウが近づくとシジュウカラは「ジャージャー」とか「ツツピーツツピー」などと鳴くことが分かってきました。やがて著者は「シジュウカラの多様な鳴き声の中には、〈言葉〉と呼べるものはいくつか含まれている」と仮説を立て、24 ものつがいへビの模型を使って〈実験〉をこころみてみます。すると、へビにしか使わない「ジャージャー」と鳴くことがわかりました。この言葉は「へび」という特定の〈言葉〉であることをつきとめました。さらに、著者はシジュウカラは文を作っているのではないかと考えます。「ピーツビ、ピーツビ、ピーツビ・ヂヂヂヂ!」。これはシジュウカラは文にしてしゃべっていると思いつきました。著者の研究経過が楽しく綴られています。

2025 年 1 月 1700 円

<西村 寿雄>



絵手紙紹介



内田 桂子

新会員紹介

会員数 162 名

郭 茵	白岩 純子
田村 治美	松本 良一
西村 ミス子	山西 恭代
山本 幸子	

(敬称略)

行事予定

□第3回定例自然観察会

寝屋川の自然観察 ～水生生物～

◇日時：2025年7月12日(土)

9:30～12:00 雨天中止

◇集合：寝屋川市役所玄関前 9時15分

又は直接幸町公園へ 9時30分

寝屋川市環境総務課と共催です。

*詳しくは連絡資料①をご覧ください。

□第4回定例自然観察会

里山の自然 四條畷・下田原

～里山樹木・野草・キノコ～

◇日時：2025年9月23日(火・祝)

9:30～15:00 雨天中止

◇集合場所：四條畷霊園バス停付近

◇集合時刻：午前9時30分

◇持ち物：弁当、水筒、雨具等

◇案内：田中英明さん 上田 豪さん

身近な自然ガイドブック「里山を歩こう」

*参加の申し込み不要、当日集合場所へ

*詳しくは連絡資料②をご覧ください。

□第2回みんなの掲示板

伊吹山・山室湿原

～高山植物・湿原の自然～

◇日時：2025年8月19日(火)

7:30～18:30 雨天中止

◇集合：アルカスホール前 7:30

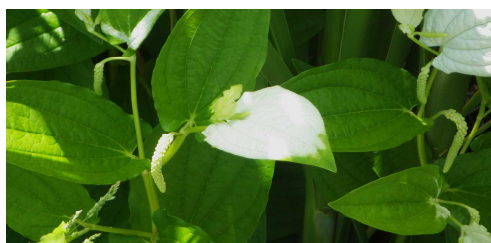
◇参加費：7,000円程度 定員22名

◇参加申し込み：8月12日までに下記へ

中村 090-8750-5738

千田 090-4036-0719

*マイクロバスを利用します。



ハンゲショウ 2025.6.6 長居植物園

子ども自然シリーズ講座

<第4回>

「夏休み自由研究のヒント」

◇日時：7月19日(土) 10:00～12:00

◇参加対象：小学生 20名

◇プログラム

① 「生きもの大好き」

② 「メダカの飼育と観察」

*参加者には、メダカのプレゼントがあります。

<第6回>

おもしろ科学実験

「かみなりの科学」

～人工かみなりを作ろう～

◇日時：8月2日(土) 10:00～12:00

◇参加対象：小・中学生 20名

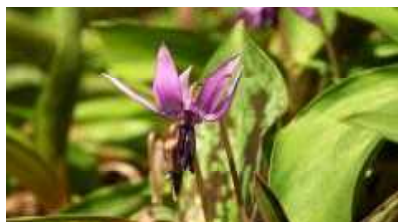
*会場：自然体験学習室 Tel 072-839-6882

中央図書館西分室内

*参加申込7月2日(水)より、先着順

直接又は電話で自然体験学習室へ

*参加費 無料



カタクリ 2025.3.20 私市植物園

編集後記

本会発足26年目の会報101号をお届けします。100号では全頁カラー版にできましたが、今年度は8頁カラー版でお届けします。活動報告、行事予定のほか、シリーズ記事3篇「シダ植物もおもしろい・自然界のふしぎ・私の自然観察」もお楽しみください。

私の散歩道では中学生の記録写真も届きました。これからの記事も継続してまいります。左のかたくりの写真もその中学生の記録写真です。

今後とも会員の皆様のご投稿をお待ちします。

*自然を学ぶ会の
HPです。

